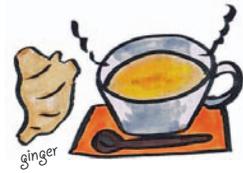


冬  
号

Dec. 2016 / Vol.1 No.2

News Letter



公益社団法人京都保健会  
京都協立病院

発行元

あやべ協立診療所  
ふくちやま協立診療所  
まいづる協立診療所  
たんご協立診療所

# 架け橋

住み慣れた地域でのちをつなぐ

## 「KCFM家庭医療学セミナー」ふくちやま2016報告

京都家庭医療学センター (KCFM<sup>1)</sup>)  
ふくちやま協立診療所

所長 寺本 敬一



KCFM家庭医療学セミナーは、家庭医療の啓発と地域の多職種の学習機会提供を目的に年に約2回開催されています。これまでのテーマは、家庭医療の中心原理である、患者中心の医療、家族志向のプライマリ・ケア、コンテクストを配慮したケアのほか、コミュニケーション技法、行動変容、Narrative based DM care、在宅緩和ケア、地域診断、高齢者総合評価、シネメデューケーションによる医療倫理、HPH、ポリファーマシーなど多彩な内容で開催してきました。2015年秋は、家庭医療の紹介、糖尿病のUPDATES、認知症BPSD（特に排泄ケア）のテーマで初めて福知山市で開催して約30名の参加で好評を頂

いておりました。

今回は、在宅看取りをテーマに第11回KCFM家庭医療学セミナーを2016年9月17（土）に日本プライマリ・ケア連合学会近畿支部の協賛もいただきふくちやま協立診療所で開催しました。学習目標は、在宅看取り 経口摂取できなくなってきたからのケアと家庭医療学

### 注1) KCFMとは…

1998年12月頃、Ian.R.McWhinneyの“A Textbook of Family Medicine”の輪読会がきっかけで、ネット会議などを積み重ね、2006年1月に地域の方々とともに、地域の医療の質の向上、健康水準の向上を目指すために必要な家庭医を育てるための拠点づくりとして、京都民医連中央病院、京都協立病院、たんご協立診療所の共同施設群として“京都家庭医療学センター”を立ち上げました。英語名としてKyoto Center for Family Medicineとして、略称をKCFMとしました。名称の由来として、当時京都で唯一の家庭医療施設であったことから“京都”を冠し、私たちは日々第一線の地域医療で働いていますが、学問的にもしっかりと研鑽していこうという意気込みを込めて、家庭医療センターでなく、家庭医療“学”センターと命名しました。



アイスブレイクのスリーAゲーム



特に患者中心の医療 難しい患者さんの対応の習得でした。

スリーAゲーム（認知症予防）でアイスブレイク後に、患者中心の医療、難しい患者の対応についての講義をまず行いました。その後、桜井隆先生（さくらいクリニック）よりご推薦いただいた田中章太郎先生（たなかホームケアクリニック@三田市）の講演では、2事例を通して実践経験をお話していただきました。改めて在宅看取り診療、ケアの魅力、尊さを教え

ていただくことができ、多くの学びは感動的でした。先生を目指す在宅診療の理念と理想を追求され、実践されている迫力、凄みも感じることができました。

合計31名の多職種（ケアマネ、訪問看護師、薬剤師、診療所、病院連携室担当看護師、病院、診療所の作業療法士、医師）の参加で、癌終末期で本人は強く在宅療養を希望されていたが、最終的に病院搬送となった事例についてのグループワークを行い、活発な討論がなされ、学びの相乗効果もみられました。地域の多職種の交流の場にもなり、当地域の在宅医療の質向上につながると確信しています。アンケートからも当初の目的、学習目標以上に達成できていることが確認されました。

詳細はKCFMのHP  
(<http://www.kcfm.jp/>)をご参照下さい。



ふくちやま協立診療所  
(テナントの1Fが事業所です)

## 専攻医研修委員会と 専攻医セミナーの紹介

京都民医連 専攻医研修委員会 委員長  
京都協立病院 副院長

玉木 千里



2015年度より委員会のメンバーを刷新して、後期研修委員会を、第二次専攻医研修委員会と改名。新体制のもと、さまざまな試みを行いました。

まず、4月に決起集会を開催し、民医連の専攻医研修についてのSWOT分析を実施。分析から得られたprosとconsをもとに、新しい委員会のミッションを次のように決めました。

- (ア) 専攻医セミナーの企画運営
- (イ) 医師委員会と専攻医間のスムーズな情報伝達
- (ウ) 専攻医の不安とニーズを抽出し、それをサポート

- (エ) 専攻医の立場と権利が守られるよう、各診療科部会や所属事業所への働きかけ
- (オ) 専攻医が集まってくる魅力ある医師集団作り、専攻医研修カリキュラムについて組織上層部への意見提案

専攻医研修委員会の中心的活動となる専攻医研修セミナーにおいては、2015年度の通年テーマを「臨床研究の基礎と実践」と定め、最終回となる第4回では、



研究企画書の発表をセミナーのアウトカムとしました。発表後には修了証を贈呈し、修了を労いました。アンケート結果からは概ね好評を得ました。さらに、2015年度からの新たな取り組みとして、メンタリング制を開始しました。2015年度16名の専攻医全てに対して委員会のスタッフがメンターとして定期的に面接を行い、日頃の悩みや抱えている課題について相談できる場を設けることを狙いとしました。2016年度の専攻医セミナーでは、4月の第1回にEBM教育のカリスマである東京北医療センターの南郷栄秀先生をお招き

し、「臨床論文の読み方」と題して学習会を開催しました。これに続く2回のセミナー（7月、10月開催）は、紹介していただいた論文読解のための様式を用いて各グループが論文を読解し、それを他のグループにプレゼンするという内容で実施しました。今後は専攻医研修委員会から、各専門研修プログラムの専攻医評価法に関して積極的に関わることも検討しております。今後も専攻医のための居場所づくりとしての役割を意識しつつ、専攻医が伸び伸び生き活きと研修し、成長できる機会を提供して参りたいと考えています。

## ENJOY!

### 9、10、11月はマラソン3連発

京都協立病院 院長 門 祐輔

9月は丹後ウルトラマラソン100km。食べ過ぎて嘔吐しながら走った初めての大会。棄権も考えたが、歩いているうちに体調が回復し、終わってみれば過去2番目の最速、11時間8分31秒でゴール。その都度やれることをやっているうちに活路が開ける、(ウルトラ)マラソンは人生そのものだと実感した。

10月は大阪マラソン。高校の同窓生とチームを組んで女性3人を含む還暦(+1歳)9人全員が完走するという快挙。10数人の応援団と一緒にの打ち上げは、1ヶ月前に行った同窓会の続きのようで、楽しい時を過ごした。

11月は福知山マラソン。今は立派な精神科医になっているかつての本院研修医と偶然一緒になった。私は3年連続のサブ3.5時間を達成できなかったが、彼はイーブンペースを崩さず3時間19分の快走。来年こそは、後半失速するパターンからの脱却をしたいと強く感じた。

と書くと、遊んでばかりいるようだが、9、10、11月は講演・学会3連発でもあった。

9月は「かかりつけ医認知症対応力向上研修」で講演。主に本院へ着任してからの3年半で経験したさまざまな認知症患者を紹介し、認知症の診断・治療・対応法・問題点などを紹介した。



10月は保団連医療研究フォーラム。「地方都市における民間小病院の役割—京都府北部での経験—」のタイトルで、この間の中丹医療圏における「地域完結型医療」への変化を報告した。リハビリテーション分野を中心にまとめる過程で、この地域における今後の本院の役割を考えることができた。

11月は神経治療学会。「椎骨動脈解離性動脈瘤破裂後に生じたOpalski症候群の2例—異なる併存症候に対するアプローチ」。この症候はWallenberg症候群症候群の亜型とニッチなものだが、アプローチ方法はリハビリテーションを中心に、OE法（間歇的口腔食道経管栄養法）、BiPAP、薬物療法など多彩で報告に値すると考えた。

もちろん、本来の仕事もしっかり行い、よく遊び、よく学び、よく働いた秋。冬はちょっと冬眠…させてくれないだろうな～。



# 丹後いいとこ、 一度はおいで

たんご協立診療所

所長 川崎 繁

たんご協立診療所は京都府北部の京丹後市大宮町にあります。

医療過疎、高齢化の進行する丹後医療

圏で初の民医連事業所として開設され、来年で20周年を迎えます。

私は、舞鶴出身ですが、北大を卒業して北海道勤医協で外科医として働いていました。1983年（昭和58年）に綾部協立病院が開設される時に地元へ帰り、外科や整形外科部門を長年担当してきました。その後、ふくちやま協立診療所所長を6年勤め、2015年春から丹後にやってきました。

自宅が綾部にあるので、月曜日の朝自宅を出て金曜日お昼までたんご協立診療所勤務。金曜日夕方協立病院の外来に出て夜自宅に帰る生活です。1、3、5土曜日はふくちやま協立診療所の外来も担当しています。

こうして書くと大変忙しそうに見えますが、私自身は病棟の受け持ちやたくさんの会議から解放されて伸び伸びと過ごしています。毎週火曜日と木曜日の午後は往診で、1日に8件前後の訪問をしますが、それほど遠方の方はいないので午後4時頃には終わります。まだ明るいうちに帰宅することもある以前からは考えられない生活です。

丹後に赴任するにあたって、せっかく海が近いので海に見える医師住宅を探してもらい、天橋立近くのリゾートマンションを借りることができました。



京都協立病院にてバースデーケーキのプレゼント  
左) 門院長 中) 川崎所長 右) 西澤医師

プール、温泉、カラオケ、テニスコート等自由に使用して、バルコニーも広いので家族や職員とバーベキューをしたりしています。仕事帰りには毎日温泉に入っています。

丹後はお魚や地酒も美味しく、冬場はカニや温泉で賑わいます。

こんな風に私は楽しく働いていますが、やはり課題は後継者対策です。現在、診療体制は月曜日から金曜日昼までは私、金曜日の夕方から土曜日（1、3、5）は前所長の寺本医師が担当していますが、2、4土曜日はやむなく休診にしています。

週末仕事もかねて温泉や釣り等を楽しんでみるのもどうでしょうか。11月から丹後大宮まで高速が開通して京阪神方面からも随分近くなりました。お気軽にご連絡ください。



▲バルコニーからは宮津の花火大会もよく見えます

◀温水プール付き